

受講生の声



櫻 なささん

受講生／埼玉県新座市

民俗学に興味がある。母の実家が総社市にあり、祖母が住んでいるが、備中神楽は初めて見た。内容の分からないところもあったが、衣装がきれいで、劇中には笑いを誘う場面もあり、予想外だった。友人に紹介していきたい。

原崎 多世子さん

受講生／東京都荒川区

古代吉備の歴史や文化を、体験を通して学ぶことができた。観光ナビゲーターとして、歴史を学ぶサークルの友人や職場の人に教えてあげようと思っている。ガラス玉づくりで作った勾玉をネックレスのペンダントトップにできた。最高！



湯浅 謙爾さん

受講生／岡山県美咲町

岡山県の主催する事業で知り合った神崎さんのプロデュースと知り、参加した。歴史が大好き。この4日間でいろいろな人と出会い、交流を深めることができた。今後はさらにネットワークを広げ、総社のPRをしていきたいと思う。



平成24年度 総社観光大学
平成24年8月24日 於鬼ノ城



2



1



4



3



5

魅力を語り伝える人づくりの観光

ら参加した橋雄三さんは、「神楽の吉備津がよかった。予想外に物語が分かりやすく、演技がエネルギーで感動した」と。神奈川県の御手洗満希子さんは、「鬼ノ城の説明を現地まで直接聞いて、より興味がわいてきた」と話しました。神崎さんは、「私たちは感じ

る力をもっているが、鈍ってきている。それを取り戻すためには文化を理解することが必要。この大学で考え、感じたものを、皆さん同士の縁を力にし、多くの人に伝えていってほしい」と総括。学長で総社観光大学事務始の講義を担当した市長も、「総社にはすばらし

い観光資源がある。独自性やアイデアをもって新たな観光をつくっていくべきだ」と、地方主権の時代を見据えて力説しました。宝福寺の小鍛治元慎住職は受講生に、「観光」という言葉には、国の光を見るという語源がある。見る側は見方、見せる側は見せ方

を考えなければならぬ」と講話。総社の魅力や本質を知り、それを語れる人づくりは、観光の推進とおもてなしの心で観光客を受け入れる鍵となるものです。総社観光大学は、総社の魅力や本質を広める側での人づくり。今回、積極的な姿勢で熱心に受講した26人

は、総社の光輝しているものを、それぞれに見つけたことと思います。私たち市民も、26人に負けないよう、温かく迎え入れ、総社の魅力を全国に発信することに努めていきましょう。
問い合わせ 商工観光課
観光プロジェクト係 ☎0852-8277

古代吉備の講義をはじめ、鬼ノ城や宝福寺の見学、座禅体験、赤米を食べるなど、多彩な内容の総社観光大学の4日間を振り返ります。
古代吉備の着衣をテーマにした織物とガラス玉づくりの体験講座は、受講生に

好評でした。総社にちなんだ物づくりの体験を通じ、文化や風習への関心を深めてほしいという主催者側の思いも込めた講義。「学ぶだけでなく、受講生同士がコミュニケーションをするきっかけにもなり、横のつながりが広がっていくことも期待していた」と、商工観光課は話します。
「雪舟はおしゃべりだった」、「秋冬山水図には強引な作風が見られる」。郷土の偉人「雪舟さん」の人物像や水墨画について、吉備国際大学の守安教授が分

かりやすく解説。興味深い話に受講生は聞き入っていました。
公開講座で行われた民俗学者の加原奈穂子さんの講義は、岡山のシンボル「桃太郎」を考察。桃から生まれない桃太郎や戦争に利用される桃太郎など、地域や時代により異なり、変化してきた事実、受講生は驚いていました。
最終日には受講生一人ひとりが、これまでの受講内容をふまえ「古代吉備の歴史文化の新発見や再発見」をテーマに発表。兵庫県か

1 宝福寺の座禅堂で座禅体験をする受講生 2 学長として入学式であいさつした市長は、引き続き行われた事始の講義の講師も務めた 3 民俗学者の加原奈穂子さんによる「桃太郎」を考える講義 4 ガラス玉づくりの体験講座。勾玉づくりに挑戦した受講生もいた 5 赤米や吉備路おこわのおにぎり、セロリのなら漬けなど、総社の味を楽しめたお弁当

古代吉備
ロマン